

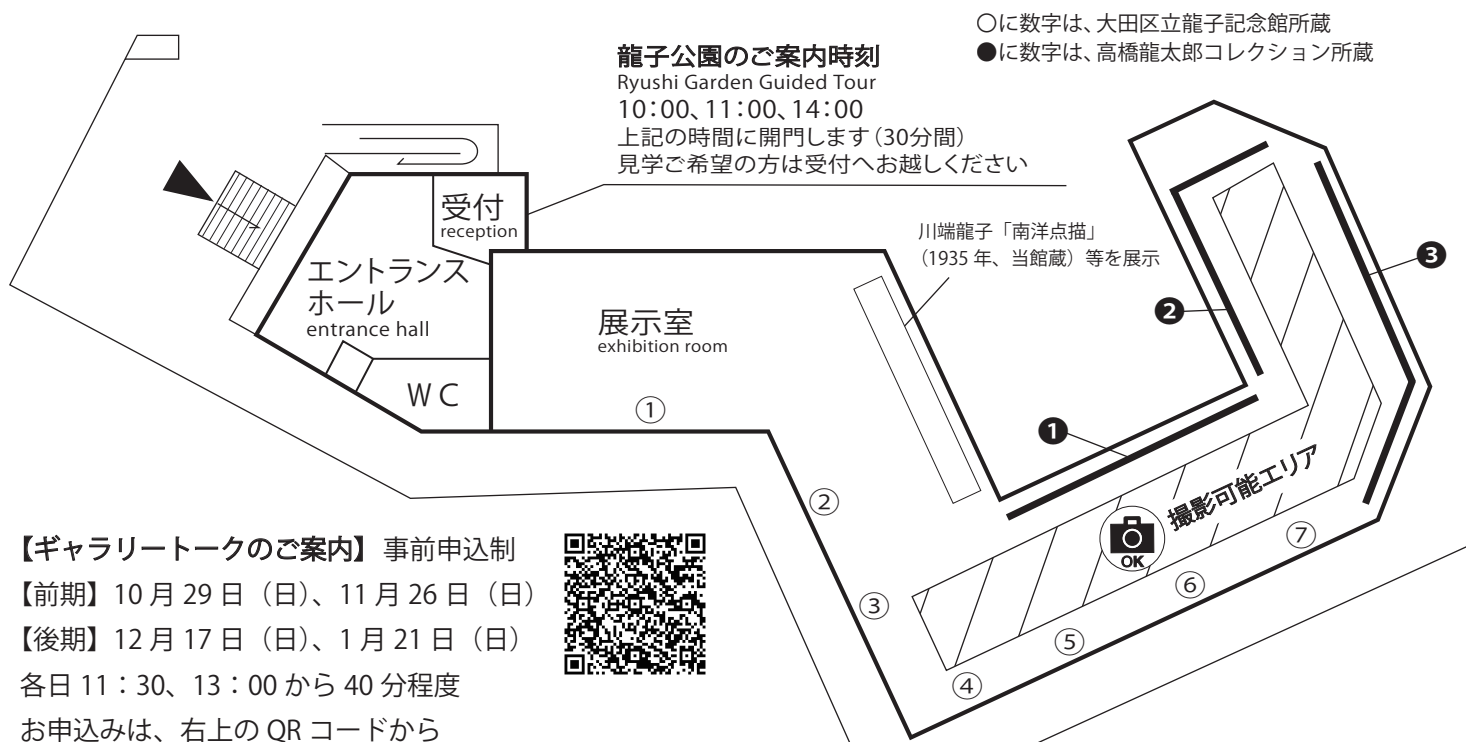
# 大田区立龍子記念館

## 高橋龍太郎コレクション連携企画 川端龍子プラスワン 濱田樹里・谷保玲奈—色彩は踊り、共鳴する（前期） 2023年10月21日（土）～12月3日（日）

### Ryushi Memorial Museum

Kawabata Ryushi Plus One  
Collaboration with the Takahashi Ryutaro Collection  
Hamada Juri & Taniho Reina - Colors that Dance and Resonate  
First period(Hamada Juri) : Oct.21 ~ Dec.3,2023

In this exhibit, the collection of one of Japan's top art collectors, Psychiatrist Takahashi Ryutaro, will be on displayed along with works by Japanese Painter Kawabata Ryushi. Following the acclaimed collaborative exhibition between the Takahashi Ryutaro Collection and Ryushi Memorial Museum in 2021, this project ventures to find out how well it will resonate to have archival works from the museum be complemented by those of a modern artist under the concept of "Kawabata Ryushi Plus One." With the first half for Hamada Juri and the latter half for Taniho Reina, Ryushi Memorial Museum will be newly enriched with the colors of their artwork on large screens.



### 展示作品

作家名	作品名	Artist Title	制作年	描法・様式	サイズ(縦×横) 所蔵
① 川端龍子	「渦潮」	KAWABATA Ryushi Whirlpools	1956年	紙本彩色 額装・六枚一面	241.0×725.0 cm 大田区立龍子記念館蔵
② 川端龍子	「炎庭想雪図」	KAWABATA Ryushi Thinking of Snow - Covered Garden on a Hot Day	1935年	紙本彩色 屏風・六曲一双	各 165.1×381.0 cm 大田区立龍子記念館蔵
③ 川端龍子	「草の実」	KAWABATA Ryushi Seeds of Grasses	1931年	絹本彩色 屏風・六曲一双	各 177.2×382.7 cm 大田区立龍子記念館蔵
④ 川端龍子	「爆弾散華」	KAWABATA Ryushi Bomb Exploding	1945年	紙本彩色・額装	249.0×188.0 cm 大田区立龍子記念館蔵
⑤ 川端龍子	「阿修羅の流れ(奥入瀬)」	KAWABATA Ryushi Ashura Stream in Oirase	1964年	紙本彩色 額装・四枚一面	245.4×484.8 cm 大田区立龍子記念館蔵

#### ■出品作家・濱田樹里による作品セレクト

コメント「自身の運命を俯瞰的に見つめている。運命の流れに対し、凜とした美しさと独り静かに向きあう情景がそこに在る。」

⑥ 川端龍子	「御来迎」	KAWABATA Ryushi Sunrise Viewed from the Mountain Top	1957年	紙本彩色 額装・六枚一面	243.6×723.8 cm 大田区立龍子記念館蔵
--------	-------	--	-------	--------------	---------------------------

■出品作家・濱田樹里による作品セレクト  
コメント「陽の導きにより、駆け巡る白馬の勢いに自身も天空へと駆け上がる。暁の女神はすべてを照らし天と地を結びつけ、生命を呼び起こす。」

裏面へ➡

作家名	作品名	Artist Title	制作年	描法・様式	サイズ(縦×横) 所蔵
⑦ 川端龍子	「伊豆の霸王樹」	KAWABATA Ryushi Cacti in Izu	1965年	紙本彩色 額装・四枚一面	244.0×485.1 cm 大田区立龍子記念館蔵
■出品作家・濱田樹里による作品セレクト					
コメント「赤い雷雲は研ぎ澄まされた感覚そのものであり、それを留め置くかのように筆を運ぶ。自身の姿勢がそれになり、再び大地を包み込む存在となる。」					
① 濱田樹里	「創世譜～歓喜～」	HAMADA Juri Song of Genesis, Rejoice	2023年	岩絵具、膠、 パネル装(屏風状)	【左右】各217.0×560.0 【中央】260.0×480.0 cm 高橋龍太郎コレクション蔵
② 濱田樹里	「創世譜」	HAMADA Juri Song of Genesis	2022年	岩絵具、膠、 パネル装(屏風状)	【左右】各217.0×560.0 【中央】260.0×480.0 cm 高橋龍太郎コレクション蔵
③ 濱田樹里	「碧の地の森から」	HAMADA Juri From Within the Blue Forest	2015年	麻紙、岩絵具、箔、 膠、パネル装	200.0×1680.0cm 高橋龍太郎コレクション蔵

○に数字は大田区立龍子記念館所蔵、●に数字は高橋龍太郎コレクション所蔵の作品です。

上記ほか スケッチ等 10点 計 20点

## ■出品作家紹介 濱田樹里(はまだじゅり)

1973年インドネシア生まれ。現在、名古屋造形大学教授

愛知県立芸術大学で学び、2002年から画廊において毎年の個展を開催、2012年には、新進気鋭の日本画家を表彰する東山魁夷記念日経日本画大賞展で大賞を受賞、作家として大きな飛躍を遂げた。美術館においては、これまで2009年の愛知県美術館の個展を皮切りに、一宮市三岸節子記念美術館、平塚市美術館等で展覧会を開催、他多数の企画展にも出品している。さらに高橋龍太郎コレクションでは、2013年の河口湖美術館「ワンダフル・マイ・アート—高橋コレクションの作家たち」においては、大作《焔にたつ華》<sup>ほむら</sup>が取り上げられている。現在、名古屋造形大学では教授として教鞭を執り、精力的に制作を続ける。

### 作家コメント

生命は色彩を纏い響き合い、時に踊り、時に鳴く。その聲を聴き、そこに奏でられるすべての音を響かせる。

大地は私を奮い立たせ、包み込み、突き放す。そして呼びかけ、語り、謳いながら魂を抱き寄せる。

色は生命の感情を表し、その動きは天の命を受けた作家の意思として現れる。作家の喜びは、魂と向かい合い表現し、

見つめることで新たな世界を見出す事である。これからも自身を天と地を結びける存在とすべく、表現を探し求め続ける。

表現との出会いの中で、作家の持つ視点が互いに呼応する。

作品の中に、その先に何を求め、何を見つけるべきか。

## ■高橋龍太郎コレクションについて

精神科医、高橋龍太郎が1997年から本格的に始めた現代アートコレクション。草間彌生、合田佐和子を出発点として、日本の現代アートにフォーカスし、特に1990年代以降の作家の作品は質量ともに抜きん出ている。奈良美智、村上隆、ヤノベケンジ、鴻池朋子、会田誠、山口晃、名和晃平、加藤泉、宮永愛子、池田学といった今や国際的に活躍する作家たちの初期作品、代表作品を多く有することから、日本の公立美術館の「失われた10年」を補完するコレクションとも言われ、国内外の展覧会への作品貸し出しは毎年100件を超える。2021年にはコラボレーション企画展「川端龍子vs.高橋龍太郎コレクション 会田誠・鴻池朋子・天明屋尚・山口晃」を大田区立龍子記念館で開催。記念館では初の試みとなる現代アートと川端龍子の作品、コレクションとを並べた展示に大きな注目が集まった。

## ■後期展示のご案内

高橋龍太郎コレクション連携企画「川端龍子プラスワン 濱田樹里・谷保玲奈——色彩は踊り、共鳴する」(後期)

2023年12月9日(土)～2024年1月28日(日)

後期は、極彩色の植物や海洋生物のイメージが増殖、拡大していくイメージを描く谷保玲奈が、大作《ウブスナ》(2017年)や対の作品《共鳴／菟荷》(2018/2020年)の他、今回の展覧会に合わせ制作した約4メートルの絹本新作などを展示予定です。

## ■展覧会の紹介動画をYouTubeで順次公開

龍子記念館では、展覧会の紹介動画を、大田区文化振興協会のYouTubeチャンネル作成し公開しています。本展の関連動画も順次公開していく予定です。ぜひチェックしてみてください。



龍子記念館紹介動画



龍子公園紹介動画



大田区文化振興協会  
YouTubeチャンネル